

2020年1月1日

説教「新しく創造される」

コリント人への手紙第二 5章 17節

新年を迎えました。元旦礼拝の御言葉をともに学んでいきましょう。

1. キリストにあるならば (5節)

- ①資格 (17) **「だれでも」** 例外はありません。「だれでも」なのです。世界中のどの国民でも、民族でも、部族でも良いのです。どんな肌の色をしていようと、どんな目の色をしていても良いのです。体の大小はありません。男女、能力、性質、生まれ、育ち、貧富、職業、経歴・・・例外なく誰にも可能性があります。
- ②救い主 (17) **「キリスト」** この大課題は、キリストが鍵です。この方について、14節以下にこのようにあります。つまり、キリストは愛なる方であり、すべての人のために死んだというのです。この方については、人間的な物差しで知ろうとするなら、理解はできないのです。キリストは人のために身代わりとなって十字架について死なれた後によみがえられた救い主というのですから。
- ③この方に頼り (17) **「のうちにあるなら」**「エン・クリストー」(原文)「インクライスト」(英語)「のうちにある」とは、その方のうちに入り込んでしまうことです。歴史上の偉大のいかなる人物の名前を出して、～のうちにととしてもこの出来事は起きません。この世のいかなる財、知恵、哲学、芸術・・・などをもってしても成り立ちません。なぜなら、キリストは人としてこの世に來られ神なのです。身を低くして私達のために来てくださった方なのです。この方の内にあるとは、この方にお任せして生きることです。

2. 新しく造られた者 (17節)

- ①つながる (17) **「その人は」** その人とは、キリストのうちにいる人です。つまり、どんな立場の人であっても、問題となるのは、その人とキリストとの関係だということです。イエス・キリストは自らをぶどうの木にたとえられ、キリストの弟子たちは枝にたとえられました。枝は木にしっかりとつながれば、いのちを保つことができます。キリストにつながった人こそ、「その人」です。
- ②新生 (17) **「新しく」** なキリストを信じるものは新しくされるのです。いかに老人であっても、新しくされるのです。キリストを夜に訪ねて来たニコデモは、新しく生まれなければ神の国に入ることはできないと教えられました。彼はもう一度母の胎に入ることはできないと答えました。しかし、神より新たに与えられる命は、まことに新鮮な天来のいのち(ゾーウエー)なのです。

③創造された (17)「**造られた者です。**」「造られたられた者」とあるのは、「創造された者」(新共同訳)という訳の方が良いかもしれません。つまり、天地創造と同じような出来事が私達のうちに起こされていくという意味です。新しい命(永遠の命)が、キリストを信じて歩みだした者たちには与えられるのです。

3. すべてが新しくなった (17節)

①古いものは (17)「**古いものはすぎ去って**」古いものというのは、物でないことはいまでもありません。それ以前の肉体のいのちとは、全く違った新しいいのちが宿されたということです。それまでのシステムは終了したということです。現実的には、その人は肉体の命を保持しつつ、その人のうちで新しいシステムとしてのいのちが始まっているということです。

②見よ (17)「**見よ**」「見よ」ということば「イドゥー」は原文にありますから、これは省略しない方が良いでしょう。よく注意しなさいよと促しているのです。

③新しいものに (17)「**すべてが新しくなりました**」部分的にはなく、全面的に新しくなったのです。新しい創造ですから、修理されたというよりは、新しいものがそこに生じたということなのです。新しい命がそこに生まれたのです。

《結論》

昨日から今日にかけて、特に新しいことが起きたわけではありません。カレンダーがなければ、何も変わらない新しい朝です。しかし、カレンダーがありますから、この朝は新しい年の朝なのです。もちろん、こうした年の巡りも主がお与えくださったことも間違いありません。だからこそ、このようにして元旦礼拝もおささげしているわけです。

さて、今朝は新年にあたり、御言葉から、本当の意味で新しくされるということについて考えていきます。赤子の命というものは驚きであり、喜です。しかし今朝の御言葉にあるところの、新しい命の誕生は、赤子の命の誕生以上に重要な出来事であるということをおぼえてはなりません。なぜなら、この命は天国につながっていくのだからです。既に少し話しましたが、あのニコデモがイエス様の所に来て、新しく生まれるということをおぼえられた時、ニコデモは全く何のことが語られているのかわかりませんでした。律法学者であり、ユダヤ人議会の議員である彼がそのことを理解しなかったのです。いわんや、ユダヤから遠く離れた地に生まれた私達が、「だれでも、キリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者である」と言われても、よくわからないと言ったところで、全く恥ずかしいことではありません。いや、それはどういうことでしょうかと疑問を述べた方が正直かもしれません。それぐらいに、常識を越えたメッセージが語られているのです。

この御言葉は学んできたように、新しい創造の出来事が、私達のうちに起きるということです。また、キリストを信じている者のうちには、すでにこの出来事が生じているということです。すなわち、新しい命が形成されているのです。すると、あるクリスチャンは言うでしょう。新しい命をいただいている実感が乏しいのですと。でもそれは当然のことなのです。なぜかというならば、私達はこの地上にあって、この肉体をまといながら、歩んでいるからです。新しい命を与えられる主は、私達にこの大きな課題を与え続けておられるのです。つまり、新しく生まれて、新しい命を与えられたクリスチャンには生きる限り、聖化されていくという課題があるのです。つまり、神は新しく生まれるクリスチャンが御言葉によって教えられ、聖霊の助けをいただきながら、祈りつつ歩むと、少しずつ聖められていく、変えられていくという道に導いてくださったのです。

あのダマスコ途上で劇的なキリストとの出会いを与えられたパウロですら、「私には自分のしていることがわかりません。私は自分がしたいと思うことをしているのではなく、自分が憎むことを行っているのです」(ローマ 7:15)と告白しているのですから、それはすべてのクリスチャンにあてはまることと言って良いでしょう。

このようなことで、すでにキリストを信じている方々は、改めてキリストにあるすばらしい新しい命を与えられていることを自覚しましょう。また、聖められていくことを願っていきましょう。また、自らの課題について、この前の日曜日に「その地を所有せよ」と学びましたが、その課題追求に、祈りつつ意欲的に取り組ませていただきましょう。

まだ、公式にはキリストを告白する前で、キリストを求めている方には、是非この年、キリストという方を知っていただきたいと願います。「キリストにあるならば、その人は新しく造られ者となる」という御言葉を信じて、新しい創造の出来事に与っていただきたいと思えます。私どもも、この出来事が起こされていくように、熱心に祈らせていただきます。

ここに集われた方々にとって、また子の教会につらなるすべての人々にとって、この年の歩みが祝福されたものとなりますように。